

NADCPの第16回トレーニング・カンファレンスに参加して

事務局長 尾田真言

2010年6月2日(水)～5(土)の4日間ボストンで開催されたNADCPのトレーニング・カンファレンスに今年も参加してきました。これで連続8回目の参加となります。

全米ドラッグ・コート専門家協会 (National Association of Drug Court Professionals、以下NADCPと言います。)は、1989年のドラッグ・コート創設から5年経過した1994年に設立された。ドラッグ・コートの実務家(裁判官、検察官、弁護士、保護観察官、ケースワーカー、カウンセラー、TCや薬物依存症リハビリ施設などのトリートメント・プロバイダーのスタッフ等)と関連団体の関係者(自助グループ、薬物検査キット製造業者、出版社等)がメンバーになっています。NADCPの活動目標は、ドラッグ・コートを発展させ、資金援助を行い、最新情報を提供し、相互に情報交換しあうことにあります。NADCPは1995年から毎年トレーニング・カンファレンス(研修会)を開催し、ドラッグ・コートの担い手たちに、ドラッグ・コートをめぐる諸問題についての最新情報を提供し、参加者を教育しています。出席者のほとんどがドラッグ・コート業務に携わっている実務家であり、この研修会自体が、NADCPとしての統一的な見解を関係者に周知徹底する場として機能しているようです。

今年のテーマは「Putting a Drug Court Within Reach of Every American in Need (ドラッグ・コートを必要とする全てのアメリカ人の手の届くところに設置しよう)」というものでした。4日間にわたる研修は、26ものさまざまなテーマに分かれたセッションで同時進行していました。

その一つとして、昨年から、実際にドラッグ・コートに傍聴に行くツアーが企画されていますが、今年は初日の6/2(水)朝8時に受付開始で先着50名がボストンにあるマサチューセッツ州連邦地方裁判所で開廷されているリエントリー・コート(Reentry Court=刑務所出所者のためのドラッグ・コート)に行くというものでした。私は午前8時ちょうどに受付場所で登録することができ、午前9時半に会場前から出発した、NADCPチャーターの1台の大型バスで裁判所に行きました。裁判所に着くと、携帯電話、カメラ、録音機器等の電子機器を受付で預けなければいけませんでした。中に入ると、これまで見学したどのドラッグ・コートよりも静寂、きれいでシンプルな雰囲気、しかもボストン湾に面した素晴らしいロケーションにあります。裁判所のホールには、世界中の難民キャンプの写真がパネル展示されていたり、壁には人権に関する法格言がいたるところに彫られていたりして、基本的人権を保障しようという雰囲気に満ち溢れた場所でした。

私はここで、16人の参加者の裁判を傍聴しました。1人数分ずつ判事とのやりとりがあるのですが、判事ほとんどすべての参加者に対して、ドラッグ・コートの手続きが終了した後は、NAやAAのスポンサーを頼ることの重要性について説明していました。

このリエントリー・コートのプログラムは12週間×4+4週間=52週間の5段階で構成されていて、52週間クリーンでいたときに終了するというものでした。リラプスすると最初の段階に戻されます。

6/3(木)の午前10時から開催されたオープニング・セッションでは、3,300人の参加者の前でエリック・ホールダー司法長官が基調演説者として、ドラッグ・コートを称える演説をしました(注1)。アメリカの司法長官は、日本で言えば、法務大臣、検事総長、内閣法制局長官の三者の役割をあわせて持っているようなポジションです。以下に、抜粋を記します。



マサチューセッツ州連邦地方裁判所
(ボストン)



ボストン湾



ボストン美術館



「裁判官、連邦検察官、副司法長官、そして今は、司法長官として、私はドラッグ・コートによって薬物依存者がアディクションから回復し人生を取り戻し生活を向上させるのにどれほどの効果を上げるかをこの目で見てきた。

我々は犯罪を犯した人々を刑務所に入れるだけでなく、彼らが刑務所を出て、社会に再び入る時に何が起こるかに注目しなければならない。

また、薬物依存を持つ人が治療を受けることなく出所した時、それは重要な機会の喪失であると同時に社会にとっての危険性が継続することだと認識しなければならない

ドラッグ・コートは他の刑罰手段のどれよりも、犯罪を削減する。最も厳格な科学的メタアナリシスがすべて、ドラッグ・コートは他の刑罰よりも約35%犯罪を減少させると結論付けてきた。また全国で、ドラッグ・コート卒業者の75%がプログラム終了後2年間逮捕されずにいる。

断薬、回復、個人責任を推進することで、ドラッグ・コートは薬物使用、犯罪、刑務所、リハビリテーションなしの釈放の悪循環を断ち切る助けになる。無論こうしたプログラムは人々にフリーパスを与えるものではないし、厳しい、きわめて困難なものである。しかし成功した者には、生産的な未来が本当に開けている。

明らかな経済効率性と高い成功率があるにもかかわらず、ドラッグ・コートは薬物依存をもつ非暴力事犯の検挙者で、既にプログラムへの適格性を有すると判断された者の半数にしか利用されていない(注2)。ドラッグ・コートが拡大されて今現在適格な者を全員治療することができれば、1ドルの投資ごとに2ドルの経費削減となり、年間10億ドルの削減となる。もしドラッグ・コートが拡大されて薬物・アルコール乱用ないし依存の危険性のあるすべての被検挙者を治療できるようになったら、1年間に300億ドルの削減になり、何百万件の犯罪を防ぐことができると推計されている。」

このように、NADCPでは、ドラッグ・コート制度は薬物需要削減政策において必要不可欠の制度であり、その有効性についても疑う余地がないものとして広報活動が為されています。

注1: <http://www.nadcp.org/2010openingsession> で、エリック・ホールダー司法長官のNADCPにおける基調演説を見ることができます。

また、<http://www.justice.gov/ag/speeches/2010/ag-speech-100603.html> に全文が掲載されています。

注2: アメリカ50州全部にドラッグ・コートはあるとはいっても、全ての郡にあるわけではないので、参加率は約5割に留まっています。



エリック・ホールダー司法長官の演説



ボストンにあるハーバード大学のキャンパス



ドラッグ・コート卒業生が自分の体験談を話していました。



NADCPではその年に活躍した人を表彰する様々な賞があり、候補にあがる人は裁判官、検察官、プログラムディレクターなどです。



スコットランドからもドラッグ・コート判事らが来て、民族音楽を演奏していました。